

伝説のプログラムを書いたのは
なんと謎の女の子…!
身近な誰かのための一歩が始まる!



自分が想像も
つかないような

複雑な仕組みで…
いろんなものが
自由に動いたり
するのが不思議で…

小さい頃は電車や
車のことが
大好きだったっけ…

だからなのかも
知れない…

プログラムに興味を
持ったのは…
そして今の仕事は
システムエンジニア
の卵…

鉄道オタクでもあるので「てっちゃん」と
呼ばれても平気！

てっちゃん！

電車はいまでもスキっ！

よっ
仕事のほうは
どうだい

名前が北川鉄治
だから
みんなに
てっちゃん
と呼ばれている



言語の進化が
早くてさあ

ついでいくのが
やっとの時も…

将来ロボット制御
の仕事をし
たいので

仕事の勉強の
毎日…のはずだが
現実はなかなか！

まへに言ひて聞かぬ



やっぱ俺
こういうのに
向いてないのかも？

新人が
何言ってるの？

最近じゃ言い訳の
ほうが上手になって…



えっ…誰



上級者が
管理者しか

いつまで
続けられるかな
この仕事…

入室できない
部屋…

俺にはしばらく

無関係…

おいおい
大丈夫かあ？

```
%A10_EndPattern
] &
] E
%A13_EndPattern
%A13_BeginPattern:
(¥203J¥203¥200¥203t¥203¥211¥201
205)
(¥203.1¥203¥200¥203t¥203¥211¥201
```





プログラムを書いたのがあの子

プログラムのことは

知っていた…

名前は確か
宗像みさ とかって
まだ若いんだぜ！

ロボットには餌から興味あったのでそのロボットのソフトはすべて関心があつた全く…あの片足ケンケンには驚いたハイパワーのサーボをどう制御してあんなポジションを保てるんだらう？それに片足を駆動するの荷重計算や慣性エネルギーを考えたら…どんな処理をしてるのかわかんないか俺には思ひもつかならう…

へ…へえー

知らなかった

人は見た目が…
はははっ…

見た目とは
かなりギャップ
あるからなあ

あの制御の
アルゴリズムには
感動したというより

ある種の憧れさえ
感じる見事なもの
だったからだ…

あの伝説の
プログラムを
書いたのが…

あの子…？

てことは
一体
何歳？

まさか十代して
ては…





でも気がなる

.....

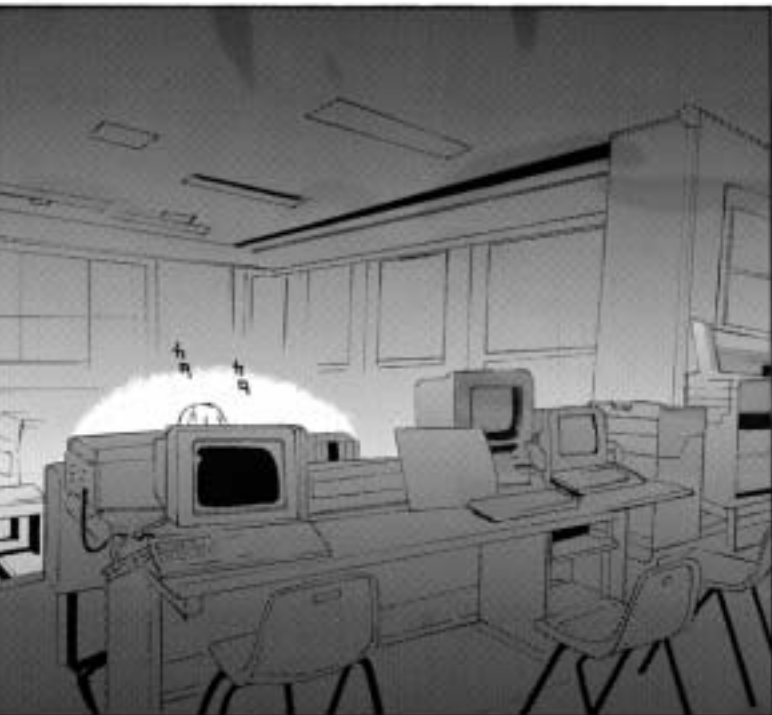


んじゃ

俺はこつち
から帰つから

あんま
考えすぎるなよ
(ハゲルゾ)

ああ..
また明日な



このまま帰っても ..

同じ毎日の
繰り返しなのは分かってるはず ..



.....

何

一歩を踏み出してみたい...

やってんすか？



誰？
…って



一体なんの
プログラムの…

何って…修正よ
プログラムの…

階段を登るイスとか
走るベッドとかの
走行安定ソフト
ってところかな？

は…走る
ベッドお？



あと
個人的には…

朝：確実に
目が覚めるシステム
とかねっ

あたし寝起きがうんと
悪いから…
目覚まし時計の
アラームじゃ
役に立たないし…



：でこんな所で
何してんの？

んーっと

簡単に言うと
介護に必要な道具の
制御プログラムかな

俺の名前は鉄治…

みんなには
てっちゃんって
呼ばれてんだ…

あたしのことは
ミサでいいよ

介護…？

…

私ね実家から
通ってるんだけど

おばあちゃんと
一緒に暮らし
てるのよね

すごいんだ
おばあちゃんは
何でも
知ってるんだ

昔の遊びとか…
私の知らないことを
いっぱいいっぱい…



コンテストで作った

ロボットの
プログラムも

ばあちゃん
から教わった
「石切」って遊び
がきっかけだし…

その頃からかな
私がIT技術を色々
勉強するように
なったのは…

あっそうか…



彼女が…



イスやベッドと
言っていたのは

大好きな
おばあちゃんと
一緒に過ごすため
だったんだ…

おばあちゃんね…

それから昔は…

おばあちゃんたらね…

だってそしたら
いつまでも
おばあちゃんと
出掛けられるでしょ！

確かに…

ロボットの制御
プログラムは
人の動きをシミュ
レーションするんだから…

お年寄りの動作を
手助け出来るような
道具のプログラムにも
応用可能ってワケだ！

ふう…

ITって
社会の
いるいるな
現場で
人の暮らしを
支えていたり
大好きな
家族の笑顔の
ためにも
役だっただ…

そうなんだ…

…俺でも

誰かの
役に立てる
のかな…



俺も
手伝う！

絶対その夢
実現
させようぜ！



よっおーしっ！



……

あつこの
プログラム
こうか…？



そこ…
間違ってます
ケド…

走るヘッドは
無理だとしても…

確実に目覚める仕組み
ぐじいなり
俺にだってサントカ…
いざとなれば…

へっ？

こうして俺たちの

新しい
二人三脚は
スタートした…



おれがおじいちゃんに
なるまでには…

かほもほ
お強いですね

ゴールはきつと…



でも結局…
何者なのだろう?

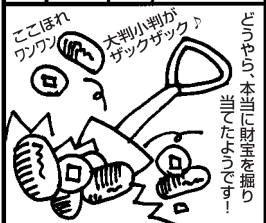
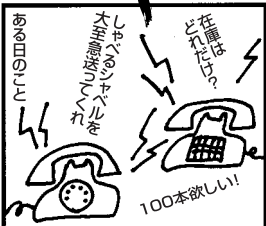
?

★この物語はフィクションです。実在の人物・団体・事件・設定等には、いっさい関係ありません。



じゃーんぱん!

最終話



※注文は保証がはべりやうござんす。

大当たり

制作スタッフ

プロデューサー：針生 英一
 ディレクター：笹井 茂
 デザイナー：K O Z O
 シナリオライター：佐藤 幸三

作画：鈴波 凜
 亥之 義人
 望月コア子
 志村 直熾

●みさのラストトーク

みさ(以下、み)「謎のプログラマーみさです。こんな「ト」できたらすごいになって、ことを漫画にしてみましたけど、最後まで読んでくれてありがとう」

鉄治(以下、鉄)「俺、あまり出番ないけど、みんなありがとう」

み「ごまごま目を通してくれたみんなには、最後にMISAの説明をしておくね。MISAって、社団法人宮城県情報サービス産業協会の頭文字をとったもので、別に妖しい儀式をしているわけじゃないのよ。それどころか、宮城県内で唯一社団法人として認可を受け、180社を超えてる県内の有力なIT企業で組織された団体なの。



MISA(ミサ)は信頼できる社団法人です

鉄「そうだったんだ。ミサっていうと白とか黒とか、色が付いて怪しい雰囲気あるのになって思っちゃったよ」

み「全然、関係ないよ。なにしろIT業界は技術の進歩が早いでしょう。だから新しいスキルを学ぶことが不可欠なわけ。そのための研修や大学との連携、そして宮城県内の産業界を活性化するための様々な行政機関への提言、実施への協力を事業として行っているのがその正体」

鉄「じゃあ、MISAの名前は信頼の証でもあるんだね」

み「そうとも言えるわ。MISAのメンバー企業は技術研修や

情報交換などを通じて、それぞれの社員のスキルアップや育成についても、熱心に取り組んでいるんだから。各社ともやる気のある有望な人材を求めているので、鉄治君がんばらないね。」

鉄「是非、MISA加盟の企業に興味を持ってみてください」

み「さて、これでお仕事全部終わっちゃったけど、これからどうする?」

鉄「どうするって? 遊び行くとか食事とか?」

み「そうじゃなくて、歩行ロボットのサーボモーターの調整が残ってたでしょう。もう一回、動きの設定からプログラムよ」

鉄「はい、とほほ」